

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書（令和7年度）

放射線療法の提供体制構築に資する研究（23EA1012）

分担課題名

放射線治療におけるがん放射線療法看護認定看護師（CNRT）の効果的・効率的活動に向けて

研究分担者 草間朋子（東京医療保健大学名誉教授）

研究協力者 有阪光恵、加藤知子、菊野直子、畑清子、三上恵子、萬篤憲

研究要旨

がん放射線療法看護認定看護師（CNRT）が配置されている174病院の看護部長、放射線治療医、一般看護師およびCNRTを対象に実施した質問紙調査の結果から、90%近いCNRTは、患者への放射線治療に関する補足説明、患者家族の指導、患者の症状アセスメント、看護師の相談・指導などの実践活動をしており、90%以上の看護部長、放射線治療医、看護師が、放射線治療におけるCNRTの必要性を認めていることが明らかとなった、その一方で、70.9%のCNRTが「満足のいく実践活動ができていない」と回答しており、「業務満足度」が低いことも明らかとなった。そこで、質問紙の自由意見欄に記載された911個の自由意見を帰納的に分析し、CNRTの業務満足度の低い要因等を検討することとした。その結果、CNRTは、放射線治療に特化した業務以外の一般外来や管理職としての業務などに、多くの時間が割かれており、放射線治療患者・家族とコンタクトする時間が十分確保できていないことが明らかとなった。CNRTの専門性を発揮できる実効性のあるCNRTの配置などの就労環境の整備を図るためには、病院管理者などの放射線看護、CNRTへの理解、認識を高めることの重要性が示唆された。同時に、がん診療連携拠点病院の施設基準としてCNRTの配置を義務化することやCNRTの活動実績を診療報酬の加算対象にすることなどの制度的整備の必要性が指摘された。

A. 研究目的

高度化、複雑化が急速に進展する放射線治療において、「がん放射線療法看護認定看護師（以下、CNRT）」は、①放射線治療に関わる患者・家族の心理的ケア、②患者・家族の相談と不安の解消、③患者・家族への放射線治療に関する補足説明、④有害事象・副作用の早期発見と的確な対応、⑤放射線治療を受けたがんサバイバーのフォロー、⑥看護師に対する放射線治療に関する教育、⑦医療スタッフ・病院スタッフ・地域医療の関係者に対する放射線治療に関する教育と啓蒙、⑧看護師・医師の相談相手、⑨チーム医療の推進役、⑩地域医療を担う関係者との連携・協働などの役割を果たしており、放射線治療における不可欠な存在であることが明らかにされている¹⁾。しかし、70.9%のCNRTが「満足に行く実践活動ができていない」と回答し、CNRTの「業務満足度」が低い実態も明らかにされている¹⁾。そこで、CNRTの専門職としての活動を阻害している要因を明らかにし、CNRTが期待されている機能を効果的・効率的に実践し、CNRTの業務満足度を向上させるための改善策を検討することを目的に研究を実施した。

B. 研究方法

CNRTが在籍している全国266病院の看護部長、放射線治療医、放射線治療に関わる一般看護師およびCNRTを対象に質問紙調査を行い、174病院（うち、75%ががん診療連携拠点病院）から回答（回答率：65.4%）

があった。本研究では、質問紙調査に回答した174病院の看護部長、放射線治療医、一般看護師およびCNRTのそれぞれが質問紙の自由意見欄に記載した、105個、333個、381個、172個、合計991個の自由意見を帰納的に分析した。

（倫理面への配慮）

質問紙調査にあたっては、質問紙への回答は自由意思によること、匿名性を確保すること、質問紙への回答をもって調査への同意が得られとすること、調査結果を公表することを対象者に文書で説明し実施した。

C & D. 研究結果及び考察

911個の自由意見を記載内容の類似性等に着目してグループ化（サブグループおよびグループに分類）した結果、①CNRTに期待する役割・業務、②CNRTの在籍による効果、③CNRTの活動を阻害している要因、④CNRTの活動を活性化・効率化するための改善策の提案、⑤CNRTが取り組む必要のある課題の5つのグループに分類された（表1）。

CNRTが専門性を発揮できていないことに対する意見の大部分は、CNRT及び看護師から寄せられ、①放射線治療業務に専念する時間の不足、②病院管理者、看護管理者の放射線看護に対する関心・認識の欠如・不足、③放射線治療に関係しない医師、看護師の放射線治療やCNRTに対する認識・理解の欠如・不足、④放射線科・外来看護師の放射線治療に関する知識・認識の不足、⑤放射線治療における看護に対する病院スタッフの誤解、⑥放射線科・外来の看護師の人員不足、⑦CNRTの不適切な配置、⑧CNRTを一般看護

師として配置、⑨外来と病棟との患者に対する情報交換・連携の欠如、⑩チーム医療における職種間のパートナーシップの欠如などがあげられた。放射線治療部門で活動する時間の不足を多くの CNRT 及び看護師があげており、その要因として、CNRT が放射線治療以外の外来の一般業務に時間を取られていること、管理職(回答した CNRT の約 30%が副師長以上の職位にある)を併任しており管理業務に追われていること、認定看護師としてではなく一般看護師として雇用(33%)されていることなど、専門職としての資格を活かすことができる業務配置が行われていないことが指摘された。さらに、病院管理者などに放射線治療における看護の役割や CNRT の業務に対する誤解があることや、理解、認識が不足していることなどが関連し、CNRT の適切な配置につながっていないことが指摘された。

CNRT が専門性を活かした効果的・効率的に実践活動をしていくための改善策の提案が、看護部長、放射線治療医及び CNRT から寄せられており、①CNRT の役割・業務の明確化による CNRT に対する認知度・理解度の向上、②CNRT の適切な部署への配置、③施設あたりの CNRT の増員、④放射線治療に専念できる職場環境づくり、⑤がん診療連携拠点病院の施設要件として CNRT の配置を義務化、⑥CNRT の活動の診療報酬への反映、⑦手当等の処遇の改善、⑧CNRT の養成課程の増加と養成課程の教育内容等の見直し、⑨CNRT の業務・裁量範囲の拡大などがあげられた。CNRT を適切な部署に配置し、専門性を発揮できるようにするためには、CNRT の役割・業務の可視化を図り、病院管理者などの CNRT に対する認識、理解を高めていくと同時に、がん診療連携拠点病院の施設基準として CNRT の配置を義務化することや CNRT の活動実績を診療報酬の加算対象にするなどの制度的な整備を図る提案が数多く寄せられた。

CNRTには、①院内外へのCNRTの活動の積極的なアピール、②CNRTの活動に関するエビデンスの創出と発信、③定期的な研修や勉強会への参加、④放射線看護の均質化・標準化を図るためのマニュアル等の作成、⑤チーム医療の推進役として活動することなどを認識し自己研鑽に努めていくことが期待されている。1ヶ月に1日程度のCNRTの自己研鑽日を設けている病院もあり、CNRTの士気の高揚に繋がっているようで、多くの病院での導入も期待される。

現在、日本看護協会が分野特定をしている認定看護師(CN)の領域は、19分野存在する。CNの養成課程も従来の養成課程(A課程)が改定され、特定行為研修とリンクした認定看護師(認定特定看護師)の養成課程(B課程)に変更され、CNの裁量範囲も拡大している。医療技術の進展、患者のニーズの多様化などが進む中で、患者と物理的にも心理的にも近い距離にあり、常に患者とのコンタクトを取り、患者の生活背景も考慮した実践活動を行なっているCNは、「患者中心の医療」を進めていく上でのキーパーソンであるとされている。行政や関連機関は、19領域のすべての分野のCNの「業務満足度」を高め、プライドを持ってキーパーソンとしての役割を果た

すことができる仕組み作りに積極的に取り組んでいくことが必要とされる。

E. 結論

放射線治療においてCNRTは、放射線治療チームメンバーが期待する役割を果たし、活動実績も評価されている。その一方で、CNRTの「業務満足度」は低く、約70%のCNRTが、「専門性を十分発揮できていない」と回答している。これは、CNRTが外来の一般業務も担当したり、管理職業務などに関わっており、放射線治療患者と十分関わる時間が不足していることに起因していることが示唆された。CNRTが専門職としての適切な部署に配置され十分な活動時間を確保していくためには、CNRTの役割・業務を可視化し、病院管理者などの放射線看護やCNRTに関する認識を高めると同時に、CNRTの配置を施設基準として義務化するなどの制度的な取り組みが必要とされる。

G. 研究発表

- 1) 加藤 知子, 三上 恵子, 畑 清子 他. 「がん放射線療法看護認定看護師(CN)」の活動実態と課題. 看護展望. 49(13), 53-59, 2024.
- 2) 加藤知子, 畑清子, 菊野直子 他. がん放射線療法看護認定看護師の実践・指導・相談活動に関する考察. 第14回日本放射線看護学会学術集会, 2025.
- 3) 菊野直子, 畑清子, 加藤知子 他. 放射線療法看護認定看護師(CN)の効果的活動を阻害している要因の考察. 第38回日本腫瘍学会学術大会, 2025

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表 1 CNRT の活動等に関連した意見の分析結果

グループ	サブグループ	意見数			
		看護部長 88名	治療医 245名	看護師 291名	CNRT 145名
CNRTに期待する 役割・業務	放射線治療に関する患者・家族の心理的ケア	5	29		
	患者・家族の相談と不安の解消	8	20		
	患者に対する放射線治療に関する補足説明		28		
	有害事象・副作用の早期発見と適切な対応	3	26		
	放射線治療後、長期にわたる患者のフォロー(サバイバースhip)		9		1
	看護師に対する放射線治療に関する教育	10	23		
	医療スタッフ、病院スタッフ、地域医療の関係者に対する放射線治療に関する教育と啓蒙		10		
	看護師・医師の相談相手		20		
	チーム医療の推進役	6	33		
	地域医療を担う関係者との連携・協働の強化	7			1
CNRTの在籍による 効果	不安の解消による安心した受療		7		
	分かりやすい補足説明による納得した受療		1	8	
	有害事象の低減や増悪防止		14		
	医師不在時の患者対応		10		
	CNRTの卓越した能力による看護・看護師の質の向上		14		
	看護師の放射線治療に関する知識・技術の習得による質の高い看護の提供		13	12	
	いつでも相談できることによる自信を持った看護の提供			15	
	地域医療施設とのスムーズな連携		2		
	看護師、若手医師、スタッフに対する教育による効果的な治療の提供		5		
	看護師の放射線被ばくに関する不安の解消と安心感			3	
CNRTの活動を阻害 している要因	放射線治療業務に専念する時間の不足		56		15
	病院管理者、看護管理者の放射線看護に関する関心・認識の欠如・不足		15		16
	医師、看護師の放射線治療、CNRTに対する認識・理解の欠如・不足				4
	放射線科・外来看護師の放射線治療に関する知識・認識の不足			22	
	放射線治療における看護に関するスタッフの誤解				3
	放射線科・外来の看護師不足			33	
	CNRTの不適切な配置	4		52	
	CNRTのスタッフとしての配置				6
	外来と病棟との患者に対する情報交換・連携の欠如			25	
	チーム医療における職種間の平等性(パートナーシップ)の欠如			5	
CNRTの活動の 活性化・効率化のため の改善策(提案)	CNRTの役割・業務の明確化によるCNRTに対する認知度・理解度の向上		3		
	施設あたりのCNRTの増員	10	10	9	7
	CNRTの適切な部署への配置	37			11
	放射線治療に専念できる職場環境づくり	3	16	3	26
	CNRTの配置をがん診療連携拠点病院の施設要件(義務化)	2	8	2	7
	CNRTの活動の診療報酬への反映	7	13	4	29
	処遇(手当等)の改善		1	1	6
	CNRTの養成課程の増加と養成課程の教育内容等の見直し	3	11	4	2
	CNRTの業務範囲・裁量権の拡大		7		
	院内外にCNRTの活動の積極的なアピール			11	13
今後、CNRTが取り 組む必要のある課題	CNRTの活動実績に関するエビデンスを創出と発信				3
	定期的な研修や勉強会の開催			36	
	放射線看護の均質化・標準化を図るためのマニュアル等の作成			6	1
	チーム医療の推進役			59	14
	自己研鑽の機会の設定				7